



Subaru

男声合唱団 ニュース№422

'13. 7. 6

合発曲をみっちりレッスン

7月5日

□ 7月5日(金)の定例レッスンは、奥村さんの体操と千秋さんのヴォイストレーニングに始まり、静さんのピアノ、伊藤さんの指揮で「母なるヴォルガを下りて」本並先生の指揮で「音戸の舟唄」を、みっちり、厳しくレッスンしました。7月14日の「大阪のうたごえ合唱発表会」へ向けて歌唱力がますます向上してきました(つもり?)。参加は全34名でした。



□ 「2013原水爆禁止国民平和大行進」は栗栖さん他多数名が、あちこちのコースで歩きます。高槻~吹田コース(7/6)は毎年奥村さんリードの「うたごえ行進」です。祈る「好天」!

♪ 八木節 ♪

投稿 乾さん

□ 手持ちの「日本民謡辞典」72年東京堂出版から。

栃木県八木地方(足利市御厨)を中心に栃木、群馬、埼玉県各地でうたわれる盆踊り唄。三県の境が寄り合うあたりにさかんにうたわれる口説形式の盆踊り唄である。元来、群馬県の木崎宿に越後から稼ぎに来ていた飯盛り女がうたったという(越後口説)一名(新保広大寺くずし)が盆踊り唄となったものというが、木崎宿とともに例幣使街道*の一駅ある栃木県の八木宿にも移入された。したがって当時は(木崎節)とよばれていたが、これを八木宿に近い山辺村字堀込の渡辺源太郎(後に堀込源

八木節と例幣使街道

●例幣使街道は上州(群馬県)倉賀野宿から野州(栃木県)榎木宿まで16宿を言う



*「日光例幣使街道」とは徳川家康の没後、東照宮に幣帛を奉獻するための勅使が通った道をいう。

太)という美声の持ち主がうたい広めたもので(八木節)とか(源太節)と呼ばれ、全国的な流行をみた。かつては(横樽音頭)であったが、現在では樽を縦にして叩きながらうたう(縦樽音頭)が多い。レパートリーは“国定忠治”のほか“鈴木主水”などが有名である。結局(八木節)は群馬県に生まれ、栃木県の民謡となった形だが、実際には群馬県東南部と埼玉県北部でさかんにうたわれている。

□ YouTubeで八木節を探ると「八木節 国定忠治 上下 オリент盤 堀込源太」が見つかった。本家本元の堀込源太のレコードである。寄せられたコメントによると大正8年から昭和4年3月までの間の録音で、マイクを使わないラッパ吹き込みだったそうだ。そのせいか精一杯の大声でうたっているのも楽しいし、間奏のお囃子の間にしわぶきが入っていたりするのもより楽しい。ぜひ聞いてみてほしいものだ。

ちなみに、八木節は音頭取りがうたっている間は伴奏は無い。その代り間奏はそれはそれは賑やかなお囃子が入る。そのためか昔から地元の方の歌を聴くと、時として音痴に聞こえる面白い唄である。



初代 堀米源太

2013年7月8日



今から50年と少し前のことです。私は松下電器に入社しました。当時はベルトコンベアーの最盛期で長時間過密労働そして低賃金、暖房も冷房もなく、労働組合は労使協調路線。そんな

私とこの歌

170

時、職場の先輩から民青同盟に誘われました。会社の言いなりにならず力を合わせ、岡邑洋介(大阪・関西柴金草合唱団事務局長)

「若者たち」

せて働きやすい職場を作ろうという民青に正義感に燃えるまま、何のためらいもなく入りました。知らない強みといいますが、よせばよいのに、ある日民青

のバッチを着けて入社、それから仲間ともども連日会社と組合から呼び出され、抵抗すると親、兄弟、親戚まで圧力がかけられました。一人また一人と脱落し、一時数十人いた仲間は数人

ラクターと戦車兵」そして「若者たち」(藤田敏雄作詞/佐藤勝作曲)でした。本格的な合唱を聴くのは初めてで、中でも「君の行く道は、はてしなく遠い」と、始まる「若者たち」は自分のことが歌われているようでそのハーモニーに鳥肌がたつほど感動。この後定年退職するまでの40年間、徹底した弾圧・差別を受けたわけですが、めげそうになる心を支えてくれたのは、いつも職場の仲間と「若者たち」を始めとする「うたごえ」でした。

岡邑さんの
私とこの歌

うたごえ新聞に
載りました